

第2章 景観まちづくりの方針

1 景観計画区域

山形市は城下町より発展してきた歴史・文化の豊かなまちであり、緑豊かな山々や市内を流れる河川などの自然あふれるまちでもあります。こうした基盤の上に、中心市街地の都市化や住宅地の造成などが進み、また、市街地を取り囲むように都市にうるおいを与える田園が広がっており、それら総体が山形市を形づくっていると言えます。

従って、地域ごとの景観特性や課題を踏まえ、市民一人ひとりの理解と協力のもと、実効性の高い景観まちづくりを全市的に進めていくため、山形市全域を景観計画区域とします。



2 景観形成の基本方針

(1) 目指す景観像

山形市の景観特性や課題を踏まえ、以下の基本理念のもと、山形市全体として目指す景観像を設定します。

「基本理念」

歴史と文化を育み 人とまちをつなぐ 景観を未来へ

① 豊かな自然と共生し、生き生きとしたまちへ

山形市は自然に囲まれ、自然との関わりの豊かな生活が営まれてきました。盆地に位置しているため、周囲の山はあちこちの街路から望まれ、周辺からはまちの姿が一望されます。遠くの山は新緑や雪景色など季節の訪れを告げます。扇状地には堰や水路が張り巡らされ、水田をうるおしてきました。豊かな自然との共生を図り、山並みや緑豊かな田園景観と調和した景観の保全と活用をする中で、人々も生き生きする景観を目指していきます。

② 歴史の文脈を生かし、風格と奥行きを感じられるまちへ

山形市は歴史あるまちです。しかし、歴史遺産などの歴史的景観資源も適切に保存・活用しなければ、人々の生活の中でふれる機会が乏しくなり、徐々にその風格を失っていきます。人々が歴史的な風情やまちなみから歴史的継続性を認識し、「山形らしさ」を感じることを誇りや愛着を育みます。まちづくりにおいて、歴史の文脈を生かし、いっそう風格と奥行きを感じられるまちとしていきます。

③ 人々が集い、新たな文化が生まれ、県都としてまちの求心力が感じられるまちへ

都市的活動は自動車交通に依存して広く分散して行われるようになり、かつての中心部が持っていた賑わいや文化的先進性は、希薄になりつつあります。中心部においては、魅力的な現代の景観の演出と新たな文化の創造が求められており、地区ごとの個性を踏まえながら、賑わい、交流のあるまちづくりによって、まちの個性を際立たせ求心力を高めていきます。

④ 観光景観を創造し、世界に名を馳せるまちへ

人口減少時代にあって、交流人口の増加は賑わいを呼び戻し、人々の生活が活気にあふれるものとなります。山寺や蔵王などを手がかりに、豊かで類まれな自然環境、歴史の奥行きを感じさせるまちなみや人々とのやさしいふれあいは、国内外の観光客の琴線にふれるものとなります。観光地としての魅力を高める景観を創造し、世界に発信できるまちを目指していきます。

⑤ 新たな世代が育つ中で、良きふるさととして、心に残るまちへ

まちは人が生まれ育つ場です。子どもたちにとって生涯にわたる思い出となるような、良きふるさとを感じさせる環境が大切です。感受性豊かな子ども時代にふれる環境を一生の財産とするため、自然の息吹、歴史の蓄積、人々の躍動を伝えるまちとしていきます。

(2) 景観形成の基本方針

山形市全体として目指す景観像を実現するための基本的な考え方は、次のとおりとします。

① 自然の表情豊かなまちづくり

恵まれた自然を守り、生かすことにより、自然と調和したまちをつくり、自然の表情豊かなものとしします。

② 歴史を生かした風格あるまちづくり

歴史遺産を守り、歴史を生かしたまちづくりを進めることにより、風格あるまちをつくりまします。まちに奥行きが生まれ、新たな発見の楽しみがあるまちとしします。

③ 山形の文化が織りなす「山形らしさ」が輝くまちづくり

人を惹きつける快適で先進的な都市的空間を創出し、映像、伝統芸能、芸術など、多彩な文化資産と結び付けることで、山形市の発展をけん引する中心市街地の活気を取り戻します。県都としての魅力を高め、「山形らしさ」が輝くまちとしします。

④ 魅力ある観光景観が人を呼び込み、賑わいを生むまちづくり

清閑な自然と厳かな寺院がいにしえを想わせる山寺、白銀に輝く樹氷が幻想的な蔵王など風趣に富んだ景観を観光や交流の資源として生かし、育てることにより、観光地としての魅力を高め、地域の活性化を図ります。国内外の観光客で賑わい、活力あふれるまちとしします。

⑤ 新たな世代に良きふるさとを伝えるまちづくり

様々な世代の人々が暮らし、子ども達の育つ身近な生活環境における、神社の例大祭での神輿渡御、年中行事の花見や芋煮会、又は町内会の盆踊りなど、地域の個性を生かし、ふるさとの伝統・文化が次世代に受け継がれてゆく景観をつくりまします。

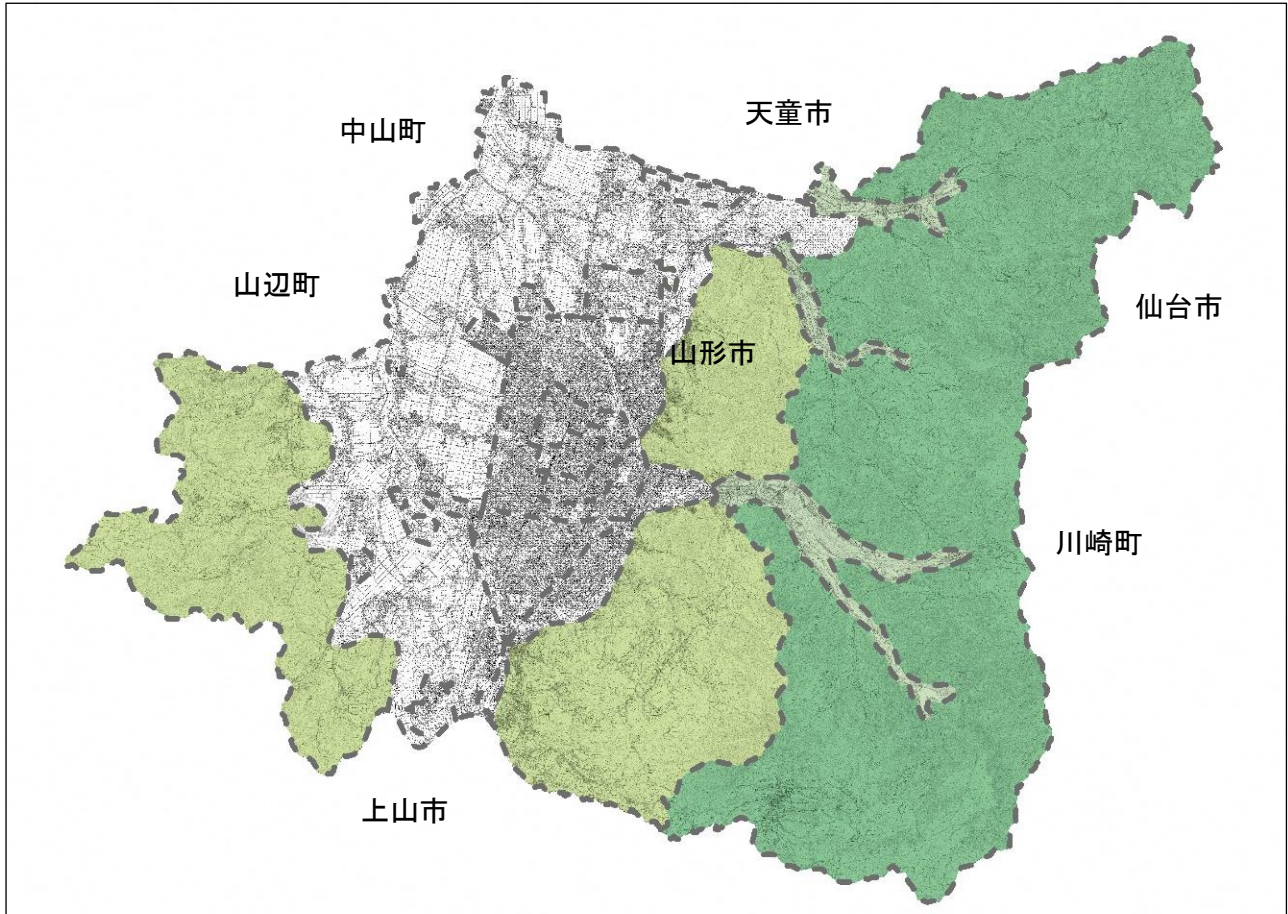
⑥ 生き生きした人のつくる身近なまちのまちづくり

一人ひとりが身近な景観を見直しその維持管理に参加したり、住民自身がまちのあり方を共に考えていく仕組みをつくりまします。そこでは、多様な視点を尊重し、まちの活力を低下させる空き家・空き地や耕作放棄地の利活用を進めるなど、生き生きしたまちづくりを行います。こうしたことにより、まちのおもしろさを再発見し、景観向上の手立てを広く考えていきます。

3 景観類型別の方針

良好な景観形成に向けた、景観類型別の方針は次のとおりとします。

(1) 自然ゾーン



自然ゾーンの課題

- 自然環境の保護・保全を図るため、人があまり立ち入らない場所と、積極的に自然とふれあう場所を区別する必要がある。
- 人があまり立ち入らない場所は、貴重な自然や生態系を維持し、遠景の印象を大切する必要がある。
- 人々が積極的に自然とふれあう場所は、より身近で親しまれる景観となるように努める必要がある。
- 山形市が誇る貴重な自然景観は、多くの人に知ってもらうための方策が必要である。
- 自然の中でも市街地に近い場所は、日常の景観として、市街地と自然の調和が必要である。
- 自然の中であって生活から生まれる景観は、自然の魅力を保ちつつ生活の場と調和することが必要である。
- 蔵王の伝統的な温泉街は、建築物や駐車場、看板類など、まちなみ景観の混乱が見られる。
- 山寺の門前町は、建築物や交通、看板類など、まちなみ景観の混乱が見られる。

自然ゾーンの景観まちづくりの方針は、次のとおりとします。

山岳自然景観

●多くを蔵王国定公園が占める、貴重な自然が残る山岳地

- ・貴重な自然景観の保全を図ります。
- ・市街地からの遠景となる四季折々の豊かな自然景観を、「山形らしい景観」として特徴づけ、豊かな眺望景観の保全を図ります。
- ・蔵王周辺は、観光地にふさわしい自然と調和した景観やまちの魅力を演出する景観の整備を行います。

山麓自然景観

●市街地を取り囲むように連なる山麓・高原

- ・より身近に親しむことができる自然地域としての景観の保全・創出を図ります。
- ・自然とふれあう機会を増やし、美しい景観に対する関心と意識を育み伝えるため、自然景観の向上を図ります。

谷地自然景観

●立谷川、村山高瀬川、馬見ヶ崎川などの、山間の帯状に開けた川沿い

- ・生活から生まれる景観でもあるため、周囲の自然景観の保全を図るとともに、自然と調和した生活の場として景観の形成を推進します。
- ・ふるさとの景観としてイメージされる、谷地の山・川・田畑の情緒的な景観は、「山形らしい景観」として多くの人に癒しと感動を与えるよう、景観の向上を図ります。
- ・山寺は、観光地・居住地としての性能の向上を図りつつ、自然に調和し、歴史性を生かした格調高い景観の整備を行います。



蔵王の樹氷

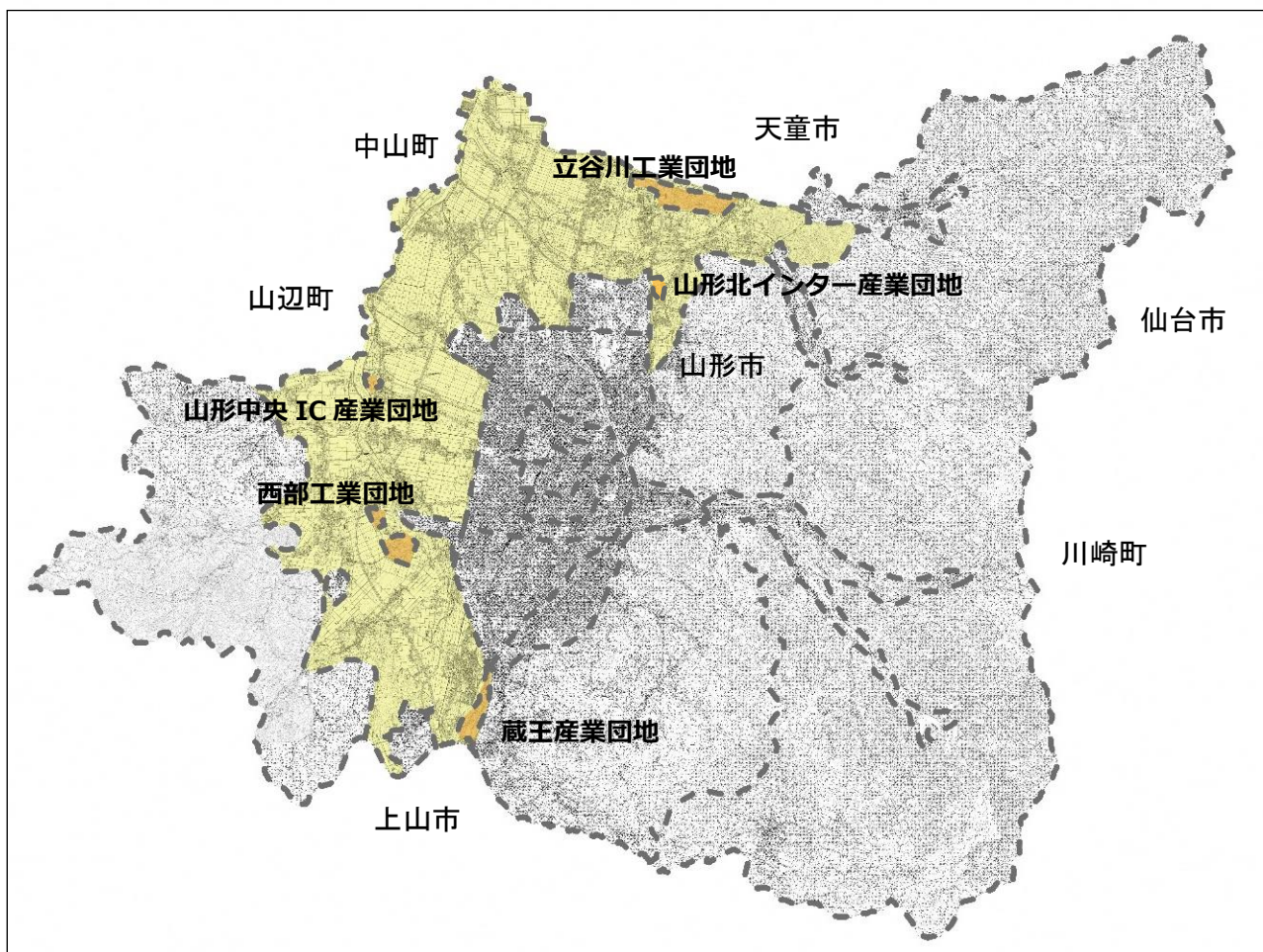


山寺（五大堂）



西藏王放牧場

(2) 田園ゾーン



田園ゾーンの課題

- 文化・伝統を継承しつつ、美しい田園景観と農業の振興の共存が必要である。
- 集落内に残る伝統的な建築形態が失われつつある。
- 地域内に残る歴史的な景観資源が生かされていない。
- サクランボ園は「山形らしい景観」となっており、果樹の里としての印象を大切にすることが必要である。
- 工業・産業団地では、周辺の田園や果樹園の牧歌的な景観との調和が必要である。

田園ゾーンの景観まちづくりの方針は、次のとおりとします。

果樹・田園景観

●市街地の北部及び西部に広がる果樹・田園地帯とその集落

- ・のびやかな田園景観は、自然と都市の重要な緩衝地であり、都市にうるおいを与えています。緑豊かな田園景観の保全と活用により、美しい景観に対する関心と意識を育み伝え、田園景観の向上を図ります。
- ・今後さらに進むと想定される農業の6次産業化においても、田園景観との調和を図るなど、良好な景観の形成を推進します。
- ・集落においては、自然の恵みを受け育まれてきた田園景観の魅力を大切にしながら、伝統及び地域特性を生かした集落全体の景観の形成を推進します。
- ・サクランボ園は「山形らしい景観」として既にイメージされていますが、果樹の里として、観光資源の魅力高める景観の向上を図ります。
- ・地域に残る歴史的な景観資産にスポットを当て、地域の景観まちづくりの核として、景観の形成を推進します。お祭りの動の景観と緑に癒される静の景観の対比を際立たせ、観光資源の魅力高める景観の向上を図ります。

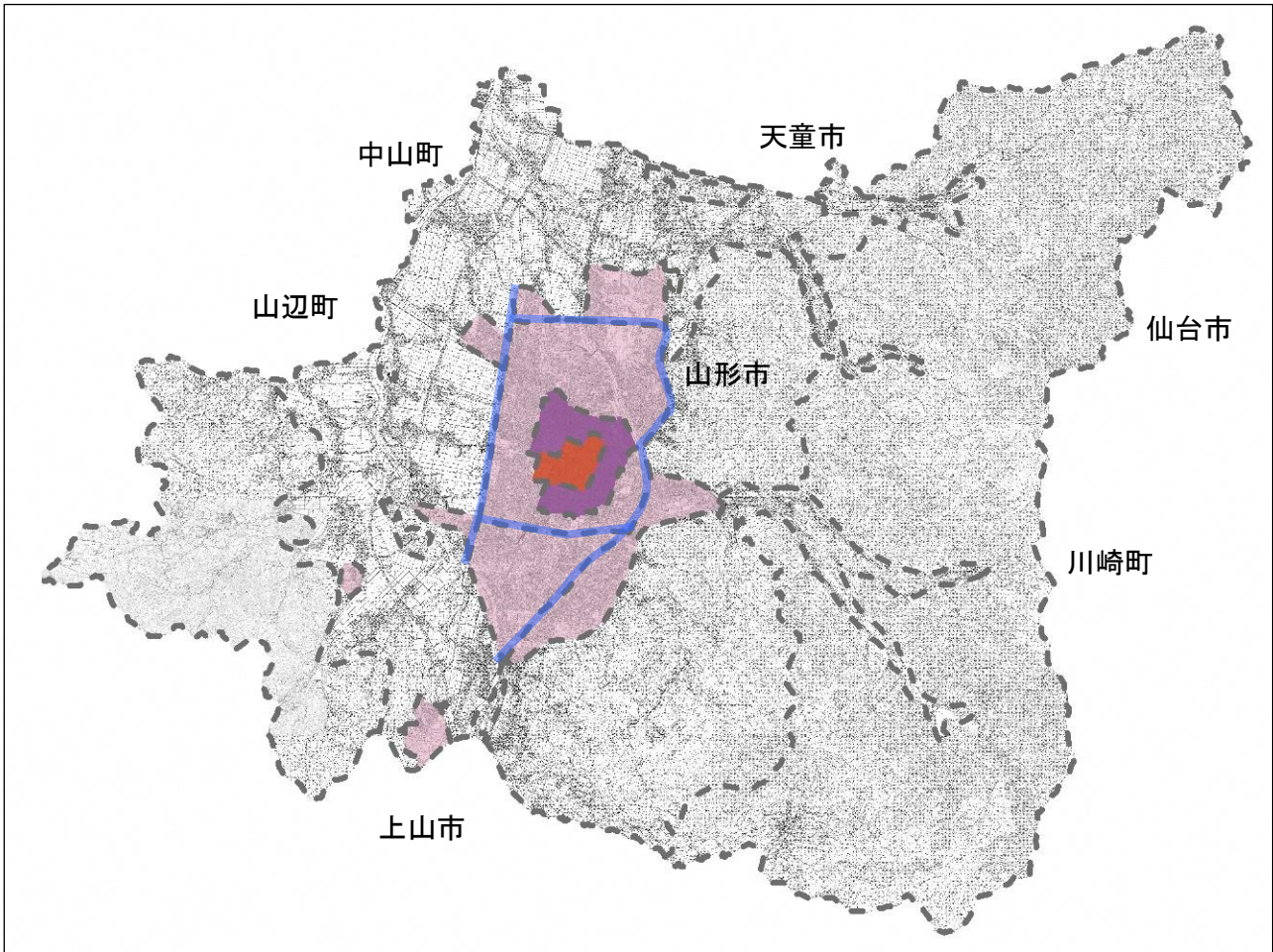
田園内産業景観

●田園地や果樹園地に点在する工業・産業団地

- ・田園や果樹園の中に占める工業・産業団地について、周囲の景観と調和した景観の形成を推進します。
- ・今後新たに造成される産業団地については、同様の方針にて景観の形成を推進します。



(3) 市街地ゾーン



市街地ゾーンの課題

- 山形駅周辺では、人の集まる公共空間としての先進的かつ華やかな景観が欠如し、まちの賑わいが薄れつつある。
- 七日町周辺では、点在する歴史遺産や土地の歴史性を十分に生かしておらず、人の集積機能も低下している。
- 寺町地区周辺では、中心部の賑わいとは一線を画し、寺社群の歴史的趣を大切にする必要がある。
- 旧街道沿いでは、伝統的建造物と現代的建造物が混在し、場所により趣を感じる場所もあれば、混乱を感じる場所もある。
- 主要幹線道沿線には、店舗の看板やサインが林立し、歩行者にとっては時にけばけばしく、時に殺伐とした印象を与えている。
- 隣接した建築物などへの配慮や緑化など、住宅地の景観の向上が必要である。

市街地ゾーンの景観まちづくりの方針は、次のとおりとします。

中心市街地景観

- 山形駅周辺、駅前大通りから七日町通りを経て山形市役所付近まで

山形駅周辺：山形市の玄関口としての先進性と賑わいを回復するための景観の整備を行います。

七日町周辺：残存する伝統的建造物や石積みの水路及びその歴史の多様性を生かし、人の集まる景観の整備を行います。

全 域：中心市街地としての回遊性を高めるとともに、空間的な広がり生まれるよう、賑わいと奥行きのある景観の整備を行います。

伝統市街地景観

- 城下町の面影と佇まいを残す、寺町地区や旧羽州街道沿いなど

寺町周辺：社寺とその緑を生かし、歴史的景観の向上を図ります。

旧街道沿い：伝統的建造物の保存や修景に加え、住環境の向上も図りながら、地区全体の景観の整備を行います。歴史と現代の関わりを意識させるまちづくりを行います。

全 域：社寺や伝統的建造物をランドマークとし、落ち着きのある雰囲気尊重しながらも、来訪者を惹きつける魅力あふれる景観の整備を行います。

沿道商業景観

- 幹線道路沿いに続く商業施設群

- ・ 駐車場、看板、緑化などの調和を図り、魅力的な沿道景観の形成を推進します。
- ・ どこにでもある幹線沿道から脱却し、賑わいの中にも落ち着きのある沿道景観の形成を推進します。

市街地住宅景観

- 郊外へ広がる住宅地

- ・ 地域特性を生かしながら、快適性の高い緑豊かな住宅地として景観の形成を推進します。
- ・ 景観形成のための、建築物などに対するルールづくりを促すなど、自主的な景観の形成を推進します。

